

話題提供③「外国人児童生徒受入拡大対応業務（県委託事業）の概要と課題について」

東京学芸大学 文部科学省委託
「高等学校における日本語指導体制の充実に関する調査研究」

（公財）宮城県国際化協会（MIA） 伊藤

子どもたちの状況

- ・外国人児童生徒の増加・多国籍化、県内各市町村に点在
(別紙「外国人児童生徒等受入拡大対応事業(宮城県教育委員会)」参照)

- ・日本語指導を必要とする児童生徒が「いる」学校は
61校(小学校31校、中学校21校、**高校9校**)

2022年5月、日本語指導を必要とする児童生徒の実態調査(県教委)

※仙台市を除く県内の公立小中学校、県立・市立高校等計473校を調査

日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査（令和3年度） 文部科学省

日本語指導が必要な外国籍の児童生徒（宮城県の高등학교のみ）

4校（全日制1校、定時制3校）

15名（全日制1名、定時制14名）

日本語指導が必要な日本国籍の児童生徒（宮城県の高등학교のみ）

1校（定時制1校）

1名（定時制1名）

支援の現状

・外国人児童生徒受入拡大対応業務（県教育委員会委託事業、MIA受託）にて、

○アドバイザー派遣

○サポーター派遣

○オンライン学習支援

令和4年度から実施。概要は、別紙「宮城県国際化協会による外国人児童生徒の学習支援について（令和5年度）」参照。

※令和3年度まではMIA自主事業にて「サポーター派遣」のみ実施。

外国人児童生徒受入拡大対応業務実績

項目	学校数	人数/時間数
アドバイザー派遣	25校 (小学校12校、中学校11校、 高校5校)	41人 (のべ)
サポーター派遣	21校 (小学校10校、中学校7校、 高校4校)	30人 (のべ) 1117.5時間
オンライン学習支援	4校 (中学校1校、高校3校)	8人 (のべ) 122時間

2022年7月1日～2023年3月31日

支援の事例①

- ・ 2022年4月にK高校に入学したIさん
2020年12月、来日。来日時、日本語ほぼゼロ。
民間団体の支援を受け日本語学習と受験準備を行った。
高校入試は社会の受験免除などの配慮があった
英語と数学は水準以上の成績だが、文系科目が困難
言語文化（国語）と公共（社会）の授業にサポーターが入り込み
で支援

支援の事例②

- ・ 2022年4月にM高校に入学したHさん

2017年5月、来日。小中学校時には日本語指導の非常勤講師が加配されていたが、あまり適切な指導が受けられていない

現状、日常会話には問題ない

英語と数学は水準以上の成績だが、言語文化、家庭総合、科学と人間生活、歴史総合などの学習が困難

オンライン学習支援を行い、日本語の基礎力向上を図っている

支援の事例③

- ・ 2021年4月にO高校に入学したSさん

2018年4月、来日。S市の中学に在籍し、日本語を学習した
現状、日常会話には問題ない

文系教科が困難で、サポーターが入り込みで支援

保護者とのコミュニケーションが難しく、通訳をつけて三者面談
を実施

課題・問題点

- ・ 最適な支援メニューはなにか
- ・ サポーター人材の確保、養成
- ・ 学校（管理職、担任等）の外国人生徒支援に関する認識の隔たり
- ・ 保護者への情報提供、啓発